

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	新潟大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ニイガタダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F115110105046
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	新潟県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	課題解決インターンシップI・II・III
	学部・研究科等名	工学部
	担当教職員名・役職	尾田雅文・教授, 増田淳・教授, 小浦方格・准教授, 東瀬朗・准教授, 長尾雅信・准教授, 白川展之・准教授, 若林悦子・助教
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	56
	受入企業等数	29
	受入企業等名	(株)NS・コンピュータサービス, ダイヤモンド電機(株), 新潟ダイヤモンド電子(株), ツバメックス, 大泉物産, ミズホ(株), 一正蒲鉾(株), 佐渡精密(株), (株)大泉物産, (公財)新潟IPC財団, (株)ウイング, (株)三條機械製作所, シマト工業(株), 寺泊産業(株), (株)ウイング, (株)新潟人工知能研究所, CEC新潟情報サービス(株), ツインバード工業(株), 妻有ビール(株), (有)新し屋酒店, (合)ファジカ, 小柳建設(株), (株)トロノキファーム, (株)システムスクエア, 新潟日報社, (株)ヨシカワ, (株)メビウス, (公社)つばめいと, (株)高秋化学
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	本科目では、企業等内の課題を多面的に観察、分析した上で、解決を図るための計画を立案するとともに、社会での実課題の解決を図る実務を通し、チームワーク力、コミュニケーション力等を含めた総合的「工学力」を習得するため、企業等組織において計18週間相当のPBL研修を行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年 大学 学部4年

2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 6単位
2-5.上記回答内容に関する詳細	課題解決インターンシップは、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの3つのパートから構成されている。それぞれ学部3年第4ターム、学部4年第3ターム、学部4年第4タームに履修することとし、合格者にはそれぞれ2単位を付与している。
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	教員と受入担当者との事前の調整に基づき、研修プログラムを作成し「条件確認書」を作成するとともに、学生に内容を説明し事前準備の指示を行なっている。同時に、学生が受入企業に提出する「誓約書」に基づき、秘密保持に関する指導を行っている。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	各ターム毎に、報告会の場を設け、それまでに得られた知見や結果についてを、指導他担当の教員ならびに受入企業担当者に対して報告するとともに、報告書ならびにプレゼン資料を提出することとしている。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	インターンシップ期間中、週に1日は学内学習日として設定し、同日は指導担当教員による面談指導を実施することとしている。
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている

要素④		3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	企業とのマッチングの際、エントリーシートの作成を求め、この中で学生の意識などを記述することとしている。また、各タームごとに、ルーブリック評価シートを配布し、提出を求めている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	各タームにおいて、24日以上インターンシップ実施日を確保することを原則としている。
	5-3.上記回答内容に関する詳細	週に1日は、学内学習日に指定し、指導担当教員との面接指導に充てている。課題解決インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲを通じて、計72日間のインターンシップを実施している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
		5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6.企業と協働して、PDCAを実施している	
6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容		
6-3.上記回答内容に関する詳細	1.受入企業との意見交換ができる場を設け、受入に対するメリット、デメリットについて相互理解を深めている。 2.受入企業担当者と指導担当教員が事前に研修に関する調整の場を設け、環境整備を図っている。 3.インターンシップ期間中においては、指導担当教員による学生への面談指導を図る他、その場に企業担当者を招く配慮も行っている。 4.研修報告会には、受入企業担当者を招き、忌憚のないコメントを得ている。また、学生の評価を行う際、企業担当者が作成した評価シートを活用し、実施している。	

	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://www.eng.niigata-u.ac.jp/~emgt/internship/">https://www.eng.niigata-u.ac.jp/~emgt/internship/</a> <a href="http://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2021/09/09_214T8002_ja_JP.html">http://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2021/09/09_214T8002_ja_JP.html</a> <a href="http://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2021/09/09_213T8003_ja_JP.html">http://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2021/09/09_213T8003_ja_JP.html</a> 他
問い合わせ先	大学等名	新潟大学
	担当部署名	学務部教務課連携教育支援室
	担当者役職名	連携教育企画係長
	担当者氏名	佐藤 亜紀
	電話番号	025-262-6309
	メールアドレス	<a href="mailto:renkeikyoiku@adm.niigata-u.ac.jp">renkeikyoiku@adm.niigata-u.ac.jp</a>